

\*掲載した授業は、東京日本語教育センターH20年度1年課程（入学時の学習歴1か月～3年の既習者クラス）のクラスをモデルとし、初級終了段階から本書を使用した場合の例である。

\*東京日本語教育センターでは、1コマ=45分で授業を行っている。

## STEP1 大学院に進学する目的を考えましょう

【目標】大学院は学部の延長として行くところではなく、研究課題を持った人がその課題の解決のために、あるいは課題に対する一定の解答を得るために行くところであると理解できるようになる。また、留学先として日本を選んだ理由、すなわち日本での研究動機が明確に持てるようになる。

【副教材例】大学院のゼミ風景、先輩からのアドバイスが収録されたビデオ（東京日本語教育センター作成、内部使用教材）

【コマ数目安】1～2コマ（1コマ=45分）

### 【授業の進め方例】

①初級文型「～んです」導入時に、課題として、以下の3つの質問に文章で回答させる。

- ・ どうして日本へ留学したんですか。
- ・ どうして〇〇を専攻したいんですか。
- ・ どうして〇〇大学に入りたいんですか。

②バンさん、ビンさん、ブンさん、ベンさん、ボンさん、ドンさんそれぞれの進学目的をクラス全体で確認しながら読む。

③問題1～2に従い、グループで進学目的として適切なもの、不適切なものとその理由を話し合う。

④①の課題の短文作成で、内容的に問題となるものをパワーポイントにまとめ、模範となる回答も混ぜたタスクを作成する。クラス全体で、回答として適切なものとそうでないもの、また、適切でないものについてはどこが問題なのかをディスカッションし、教師がポイントをまとめる。

③問題1～2を改めて考える。

### 【学生から出た回答】

ドンさんを模範的な回答として選ぶ学生が少なくなかった。ドンさんの回答は、一見きれいにまとめられているようだが、日本での研究動機としては曖昧であり、在学期間中に目的が達成できるような課題もない。短文作成段階での学生自身の回答としては、まだ語彙も少ないためか、「有名」「いい」という表現で終始してしまう傾向が見られた。

## STEP 2 研究計画書を書く目的を考えましょう

【目的】研究計画書とは、就業経験上の問題点、卒業論文の不足点、そこから生まれる研究課題、その課題を解決するための具体的な方法などをまとめた文章であることを理解する。また、実際の研究計画書を見ることにより、形式や字数などのパターンを知る。さらに、研究計画書を通して何が測られるのか、受け入れる側の立場に立って考えることにより、大学院で研究計画書の提出が課せられることの意図を理解する。

【副教材例】各大学院の研究計画書の所定用紙や指定字数などの注意事項

【コマ数目安】2コマ程度

【授業の進め方例】

- ①例を全体で確認後、ペアで同様に文章を作成する。  
時間次第では、自宅での課題にしてもよい。
- ②グループでそれぞれが書いた文章が一致しているか確認作業を行う。
- ③代表者が発表し、クラスで内容を確認する。

### STEP 3 研究計画書の構成を学びましょう

【目的】実際に研究計画書を読み、どのような構成になっているか、形式的に理解する。また、構成上の問題点（「動機」と「目的」あるいは「目的」と「意義」の混同や内容の不一致、「意義」の飛躍など）について「研究計画魚」の図を用いて考え、それぞれの構成項目にどのような内容を書くかを理解する。

#### 【副教材例】

- ・ p 76 の研究計画魚の絵パネル（各部ばらしてパズル式にしたもの）
- ・ p 18 の魚の絵パネル、地震の記事を拡大した字パネル
- \* パネルはいずれもマグネット式にして、黒板に張れるようにしておく
- ・ 研究計画書の実例集

【コマ数目安】 3～4 コマ程度

#### 【授業の進め方例】

- ①課題として、研究計画書を読んでもらうことを指示しておく。
- ②クラス全体で意味を確認しながら、研究計画書を通して読む。  
動機・背景は段落ごとにトピックをまとめながら、読み進める。
- ③問題 1 に従い、見出しを抜き出す。
- ④問題 2、3 はペアまたはグループで確認しながら行った後、全体で確認する。余力があれば、自分の専攻に近い研究計画書を実例集の中から選択し、構成を見してみる。
- ⑤ p 16 に説明されている「骨組みになる項目」と、項目同士のつながりを確認する。  
\*このとき、p 76 の魚パネルを用いて、以下の点を簡単に確認しておく、第 3 課以降進めやすい。  
パネルは全てばらばらにして、順に黒板に張って使用する。
  - ・ タイトルと一致する内容が「目的」部分に書かれていること
  - ・ 「目的」に出てくるキーワードと「動機・背景」の内容が一致していること
- ⑥問題 4 はペアまたはグループで確認しながら行った後、全体で確認する。
- ⑦問題 5
  - ・ まず魚パネルを黒板に張った後、6 枚の字パネルを各グループに配布する。グループの代表が字パネルの内容を全体に見せながら読み上げ、お互いが持っているパネルの内容と、パネル同士の関係を考える。
  - ・ 次に、グループの代表が字パネルを魚パネルの周りに張り、頭あるいは背骨あるいは尻尾と字パネルを線で結ぶ。
  - ・ クラス全体で、「動機・背景」と「目的」、「意義」の内容的な違いと、項目立てを確認する。

**STEP 4 研究計画書で使う文体を学びましょう**

**STEP 5 研究計画書で使う表現を学びましょう**

【目的】研究計画書で用いられる「である体」と、文体に合った連用中止形が使えるようになる。また、研究計画書に頻出の表現が使えるようになる。

【コマ数目安】 3～4 コマ程度

（ここでの導入が初めてになる場合は、さらに時間を要する。）

【授業の進め方例】

- ・STEP4 と 5 は文法的な学習項目が中心であるため、STEP 1～3 の考えるタスクと並行して使用すると、授業のバランスがよくなる。
- ・短文作成は時間次第で自宅での課題とする。